

1人1台端末と学習支援ツールを活用し、調べた内容を座標で表し、 視覚的に特徴を把握し、根拠をもとに防虫方法を選択する学習

第2学年

安全でおいしい野菜作りに挑戦しよう

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- 害虫を防ぐ方法についてインターネットから必要な情報を、限られた時間で得ることができました。
- 得た情報について、安全性と作業性の座標で表し、特徴を視覚化することで、根拠や願いをもとに防虫方法を選択することができました。

大型提示装置とタブレット端末の活用による効果



現在の野菜の様子や害虫の被害にあった野菜の写真を比較して提示し、必然のある課題へと導く。

- ・害虫の被害にあった写真を提示し、生徒の関心意欲を高める。
- ・手作業、防虫ネット、農薬の3つの防虫の方法について、写真を提示し、生徒がイメージしやすいようにする。



生徒のタブレット端末に、インターネットで参考になるURLを送り、生徒が害虫を防ぐための方法を効率よく調べられるようにする。

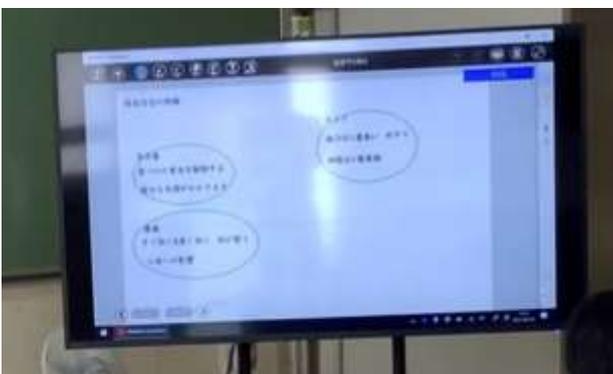
- ・教師が事前に準備したホームページから、本時、必要である情報を見付け出す。
- ・必要に応じ、画面をスクリーンショットで保存し、防虫方法を比較検討する際に活用する。

*本実践では、MetaMoji Classroomを使用した。

教師の指導のポイント

- ICT端末に表示した資料を板書にも位置づけ、生徒が学習の流れを確認することができるようにする。
- 本時のねらいや中心となる学習活動と生徒の実態を踏まえ、あえて教師が事前に調べた防虫に関するURLを生徒のICT端末に送付することで、ねらいを確実に達成できるようにする。

ICT端末の協働学習支援ツールの活用による効果



安全性と作業性の2つの視点から、調べた防虫方法を座標に位置づけ、利点と欠点の両面を考慮した上で、防虫方法を選択する。

- ・安全性と作業性の2つの視点の軸の座標シートを生徒に配布し、生徒が調べた防虫方法を座標に位置づける。
- ・作成した座標シートを保存し、選択した防虫方法で栽培を続けた後、本時選択した方法が最適であったかどうかを振り返る。

教師の指導のポイント

- 授業開始時に選択した防虫方法と、利点と欠点を考慮して選択した防虫方法の、それぞれの選択した理由の変容についての的確に把握し、評価する。